

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

全国学力・学習状況調査の分析から前へ

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。今年
は特に穏やかな新年を迎えることができ、幸多い一年になりますよう願っております。



さて、全国学力・学習状況調査ですが、平成19年度から始まり、東日本大震災で調査実施が見送られた23年度以外、悉皆調査―抽出調査等―悉皆調査と形態の変遷を経て、計8回実施されてまいりました。この間の様子を振り返りますと、当初、ランキングを核にして熱を帯びた様々な論評に対し、多くの学校現場ではこの調査と自分たちがイメージする「学力」との間にある違和感からか、いろいろな議論がなされていたように思います。しかし、調査の回数が増えるにつれて、また、教育委員会からも指導主事を派遣しご説明させて頂く中で、現行学習指導要領のいう「学力」をベースに自校の教育について見つめ直し、着実な改善・実行が始まってきているところではあります。

昨年10月から11月にかけて、教育長とともに学校訪問をさせて頂きました。その時、特に各小中学校におきましては全国学力・学習状況調査をうけての取り組み等を聞かせて頂きました。

どの学校でも全国学力・学習状況調査の分析が学校それぞれに的確になされているなあという印象をうけました。特に強く感じたのは、市教育委員会の分析にプラスして自校の「強み・弱み」等の分析がより丁寧になされ、それを受けて、学力向上にむけた校内研修の改善・実行が意欲的に進められていることです。紙面の都合で割愛しますが、具体的に紹介したい素晴らしい学校がいくつもありました。

校長室で懇談をした後、校内を回らせて頂くと、さらに気がつくことがありました。それは、かなりの学校で授業に「統一感」があるのを感じたことです。「めあて・振り返り」などの様な「カタチ」や「手法」でそれを感じたのではなく、いわば、授業の「雰囲気」に「統一感」を感じたのです。もちろん、どのクラスもいろいろな授業をしているわけですが、それにもかかわらず、どのクラスも同じような「雰囲気」が感じられるということはなぜでしょうか。おそらくこれは、校内研修等で先生方が「強み・弱み」と向き合う中で、どこにポイントを置いて授業を組み立てていけばよいかなどについて自らの課題として捉え、さらに、職員集団としても「チーム」でその課題解決に取り組んできてみえることにほかならないと考えます。そのような学校では、たとえば廊下の掲示物に目を向けても、きちんと整理され、学習の日常化が図られている気がしました。

校内研修を核に職員集団が「チーム」として機能することで、こういう「統一感」ができてくると、この学校の「強み」は増えていくのだろうなあと思いました。

今回は、率直に学校訪問で感じたことを書きましたので、各校を品評しているような、いやな印象の文章になっているかもしれませんが、真意はそうではありません。各学校の先生方が、全国学力・学習状況調査の分析から、真剣に意欲的に取り組まれておられることを肌で感じ、感謝の気持ちを抱いたのが今回の訪問でした。この先生方のご努力が一步步つ前へ進んでいきますように、年の始めに当たり心から願うものです。（山本 嘉）

松阪教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」

友だち関係や学校生活、家庭生活の悩みなどの様々なしんどさを抱え、学校へ行きにくい子どもたちがいます。松阪教育支援センターでは、学校へ行きにくい子どもやその保護者、そして、学校関係者への支援を行っています。

不登校の理由は子ども一人ひとり様々で、多様化しています。そこで、先生方を対象に、それぞれの児童生徒への対応のしかたを一緒に考えていくために、不登校児童生徒支援のための研修会を行っています。講師の先生による講演や、目の前の子どもへのかかわり方についての質問に具体的に答えていただくことを通して、子どもへの支援の方法を教えていただける機会になっています。



< 本年度(第1回・第2回)の内容 >

第1回 (6/25)	<p>森川 泉 先生（三重県教育委員会生徒指導課 SCスーパーバイザー） 「気になる児童生徒へのかかわり方①」</p> <p>不登校の児童生徒宅へ家庭訪問をする際の心構えや、どういったことをねらいにすると良いかということをお話いただきました。</p> <p>◇ 不登校の子どもの家へ訪問する際には、子どもや保護者の思いに寄り添い、子どものペースに合わせ、子どもとの『かかわりを深めること』をねらいとして継続していく。</p> <p>◇ 子どもに会えたときには、趣味について話をしたり、一緒にできることをしたりして、共に過ごす時間を持つ。</p> <p>このように、『かかわりを深めること』を大切に、子どもにとって安心できる存在になることで、登校へつながるようになって教えていただきました。</p>
第2回 (9/24)	<p>志村 浩二 先生（浜松学院大学短期大学部 幼児教育科 准教授） 「失敗事例から学ぶ～ケーススタディとグループワーク～」</p> <p>志村先生がこれまでに携わってこられた事例をもとに、相談を受ける際に気を付けるべきポイントを教えていただきました。</p> <p>◇ 一般的な考え方や自分の価値観を押し付けたり、決めつけて聴いたりせずに、子どものあるがままの姿を受け止める。</p> <p>相談の中で、子どもが一番わかってほしいと思うことではなく、聴いている側の判断で家庭環境や学習について話をすすめていったために、子どもの気持ちに寄り添えなかったことを紹介され、子どもの言葉を傾聴し、思いを受け止めることが何より大切であると教えていただきました。</p>

第3回の研修会は、次のように予定しております。参加を希望される方は、「鈴の森教室」(26-1900)まで、ご連絡ください。

第3回 不登校児童生徒支援のための研修会(第3回担任会)

日時	平成28年 1月22日(金曜日) 15:30~17:00
場所	松阪市子ども支援研究センター 2階 ミーティングルーム
講師	森川 泉 先生（三重県教育委員会生徒指導課 SCスーパーバイザー）
内容	講演 「気になる児童生徒へのかかわり方②」